

11. 地質標本館

—研究現場と市民との接点—

地質標本館は、地質調査所の部に相当する組織で、現在は、研究部門（地質標準課）と研究支援部門（試料調整課）、そして管理部門（地質標本館管理専門職）から構成されています。一方、展示空間としての地質標本館は、筑波研究学園都市への移転を契機に新設されました。その目的は、地質調査所が1882年の創立以来永年にわたり収集した岩石・化石・鉱物等を中心に、当所の研究活動と成果の紹介を通じて、研究成果の社会への還元と地球科学の普及を図ることです。1980年夏の開館から今年の夏で満16年となりますが、もうすぐ入館者50万人を迎えることになります。このような地質標本館の生い立ちや活動内容は、地質標本館開館10周年を記念した本誌no.431特集号（1990年7月号）に詳しく書かれています。以下では地質標本館の最近の様子を御紹介しましょう。

地質標本の研究

研究部門では、地質標本の分類・標準に関する研究、及び地質標本の登録・管理とそのためデータベースに関する研究を進めています。このうち、地

質標本の分類・標準に関する研究では、日本の地質を解明する基礎資料として、岩石・鉱物および化石について、それぞれ物理・化学的性質および生物学的特徴に基づく分類・記載学的研究を行い体系化することを目指しています。また、地質標本管理データベースについては、現在GEMS-IIと呼んでいるシステムで運用していますが、ネットワーク環境への対応などバージョンアップする準備に入っています。また、昨年3月に当館所蔵の植物化石標本のカatalogを作成しましたが、今後も続刊していきたいと考えています。地質標本館に現在登録されている地質標本は、おおよそ岩石：64,000点、鉱物：27,000点、化石：15,000点となっています。そして、年間400～1,400点の所内外からの標本利用があります。地質標本については、収納スペースが手狭になっていましたが、昨年3月新たに地圏情報棟が立ち上がり、効率的な標本利用が可能になりました。これから10年位は収納スペースに悩まなくて良いと考えていますが、数10万点に及ぶ所員所有の標本が登録されればそんなことは言えなくなるかもしれません。



写真1 地質標本館及び研究本館

写真2

地圏情報棟1階の標本収蔵庫。電動式の標本棚が整然と並び、約20万点の標本を収蔵することができる。

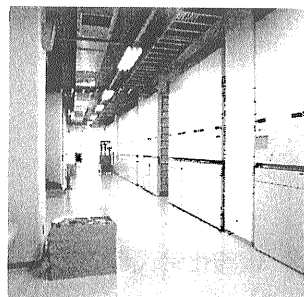
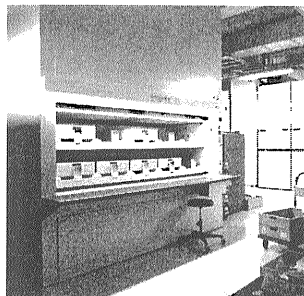


写真3

ロータリーストッカーと呼ばれる収納棚。35段の棚が上下に回転して必要な標本を取り出すことができる。



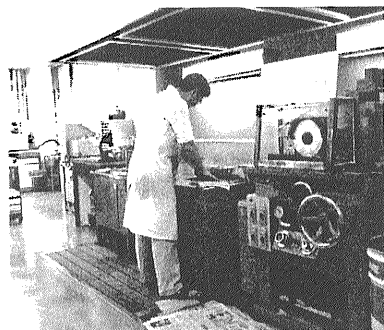


写真4 試料調整課、薄片・研磨片等の作成室。

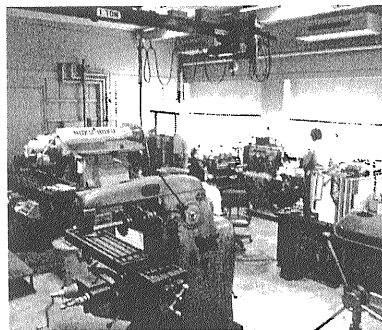


写真5 試料調整課試作室。研究者の要望に応じ各種の調査用具の製作や実験用器具を作成、改良等を行う。

研究を支えて

研究支援部門に当たる試料調整課の担当者は、岩石薄片・研磨片の作成と機械工作を受け持っています。岩石薄片・研磨片の作成では、通常のものに加えてEPMAや分析電子顕微鏡用のもの、更に最近では流体包有物の観察・測定のものなど、多様な用途でかつ多種類の分析試料に対応することが必要になっており高度な技術が要求されています。当所の技術レベルは第1級と誇れますが、やはり後継者問題には悩まされています。一方、機械工作では、研究者の様々な調査研究のための機器製作を受けもっており、研究者と担当者の密接な連携により機器性能の向上を図っています。

地質標本館の最近の活動

最近の展示改修にふれますと、一昨年に開始したやや大規模な改修が終了しました。地質標本館にはいくつかの展示の目玉がありますが、その1つが1階第1展示室の縮尺34万分の1の日本列島地質立体模型です。この地質立体模型は1978年の100万分の1日本地質図第2版を原図にしていたのですが、今回はこれを100万分の1日本地質図第3版(1992)の内容で新たに作成しました。また、これと隣り合わせに、コンピュータ(Mac)を使って日本の地質の学習と地学クイズのできるコーナーも作りました。2階第3展示室には「ダイナミックアース」と名付けた映像コーナーを新設し、3本の映像ソフトを見ることができます。このほか、1階ホールに過去1か月に起こった地震の震源位置を世界・日本・関東地方の3画面で表示するコーナーを設けました。

地質標本館の1年間の主な活動をみると、4月の科学技術週間と夏休みの時期に特別展示を開催しています。所員の研究成果やその時々地球科学の新し



写真6 地質標本館第1展示室。日本の地質を大型の地質模型を使って説明している。このほか第2展示室(地下資源及び海洋)、第3展示室(火山)、第4展示室(鉱物・岩石・化石の標本)がある。

い研究動向を、地質標本館研究者の手作りのパネルで公開しています。ちなみに昨年のテーマは春・夏とも「兵庫県南部地震」でした。夏の特別展示に際しては、夏休みに子供達が採取した岩石・鉱物・化石を鑑定して夏休みの宿題のお手伝いをする相談日を設けています。この日には同時に化石のクリーニングを体験する催しを開いており、昨年は100名を越える参加があり盛況でした。このほか、博物館に準ずる組織として、博物館実習の学生さんを若干名受け入れています。

地質標本館は、我が国唯一の地球科学をテーマとした総合的な博物館ですが、それだけでなく200名以上の研究者が背後にいて展示内容を支えていることが大きな特色です。地質標本館は、その役割一市民との接点を今後とも充実させていきたいと考えています。最後になりますが、近くに来られた折りは是非とも当地質標本館にお立ち寄り下さい。

<文責：豊 遙秋>